



事業番号	09 06 03	事業改善シート(令和4年度実施事業分)		□当初要求 □当初予算案 ■補正予算案 □点検	
事業名	農業農村の基盤整備事業	部局	農政部	課・室	農地整備課
		実施期間	S25 ~	E-mail	nochi@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	⑧再生可能エネルギー100%地域をめざし自給率を上昇				
総合的に展開する重点政策	1-2 地域とともに取り組む楽しい学校づくり		2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進		3-8 生活を支える地域交通の確保
	2-1 革新力に富んだ産業の創出・育成		3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり		4-5 地球環境への貢献
	2-2 地域内経済循環の促進		3-6 中山間地域での暮らしの価値の再発見		

1 現状と課題

目指す姿	長寿命化計画に基づき、計画的な農業水利施設の補修・更新を進めるとともに、土地改良区等による適切な保全管理体制を整え、農業生産に不可欠な農業用水を安定供給する。 農業の収益性を高めるため、営農の省力化や高収益作物の導入を可能とする農地の条件整備を進めるとともに、担い手への農地集積・集約化を促進する。 中山間地域の特徴を活かした農業生産のための基盤整備と生活環境の整備を総合的に進め、農村の活性化を図る。 農業用水を活用した小水力発電の導入を進め、売電収益を施設管理費に充てることで農業者の負担軽減を図るとともに、エネルギーの地産地消を進める。	
これまでの取組	将来にわたり農業水利施設の機能を安定的に発揮するため、計画的に農業水利施設の長寿命化を実施。 高収益作物の導入や農地の集積・集約化を促進するため、農業者の費用負担が軽減できる補助事業を活用した農地の条件整備を実施。 中山間地域において、特徴を活かした農業生産体制と生活環境整備を実現するため、補助事業を活用してほ場整備や水路・農道整備を実施。 農業者の費用負担の軽減や施設の維持管理の省力化を促進するため、補助事業を活用して小水力発電の導入を支援。	
令和3年度の点検結果・現状分析	課題	今後の方向性
	農業用水の安定供給に必要な農業水利施設は、昭和40年代に整備されたものが多く、老朽化が進行している。 農業者の減少や高齢化が進む中、傾斜地、狭小・不整形な農地などでは、担い手への農地集積が進まず、耕作放棄地の増加や農業生産活動の縮小が懸念される。	農業水利施設の機能保全計画に基づき、施設の長寿命化を実施する。 農地の区画拡大・平坦化、畑地かんがい施設の整備、排水改良など耕作条件の改善に併せて、担い手への農地集積を促進する。

2 令和4年度事業内容

補正予算のポイント・主な取組(予定)	○ 土地改良区が管理する揚水ポンプや電動ゲート等の維持管理費は農業者の賦課金で賄われているが、急激な電気料金高騰により賦課金の増額等を検討している土地改良区もあり、農業者の負担が増加することが懸念される。		
	○ 電力を必要とする農業水利施設を管理している土地改良区等を対象に、令和4年度電気料金のうち、異常な高騰分に対し補助金を交付する。		
DX、ゼロカーボン、共生社会づくり、学びの県づくりに資する取組	【DX】建設工事において、打合せや現場監督業務を可能な限りオンラインで実施し、受注者と発注者双方の業務の効率化を図る。 【ゼロカーボン】農業用水を活用した小水力発電施設の設置を支援する。 【学びの県づくり】農業水利施設や棚田について、観光や学びの場とするための条件整備を行う。		

指標の状況及び目標値 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし、-:数値なし]								
No	成果指標	単位	R1年度	R2年度	推移	R3年度	推移	R4年度目標値
1	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	か所	16	19	↑	36	↑	44
2	農業生産コストを低減するためのほ場の区画拡大面積	ha	111	147	↑	154	↑	228
3	収益性を向上させる畑地かんがい施設の整備(新設・更新)面積	ha	855	1,775	↑	2,018	↑	2,223
4	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	kW	3,581	3,613	↑	3,900	↑	4,000
5	新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数	か所	10	15	↑	20	↑	25

事業コスト	区分(単位:千円)		R2年度	R3年度	R4年度
	予算額	前年度繰越	5,407,043	6,426,367	6,786,625
		当初予算	8,422,277	8,262,709	6,527,698
		補正予算	1,044,240	1,459,227	30,000
		合計(A)	14,873,560	16,148,303	13,344,323
		うち一般財源	993,132	1,086,087	717,205
決算額(B)	8,342,634	8,725,877			
職員数(人)	73.3	77.5	77.4		

設定理由	成果指標	1.農業用水を安定供給するため、更新整備や長寿命化が必要な重要構造物の整備箇所数を成果指標に設定した。 2.農業生産コストを低減するため、区画整理によりほ場を区画拡大する農地の面積を成果指標に設定した。 3.農業収益を向上させるため、高品質な農産物生産に必要な畑地かんがい施設を新設及び更新する面積を成果指標に設定した。 4.農業水利施設の維持管理に要する農業者負担を軽減するため、農業用水を活用した小水力発電の設備容量を成果指標に設定した。 5.疏水等を観光等に活用し、施設の役割や保全の重要性等への理解を促進するため、新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数を成果指標に設定した。
	目標値	第8次長野県土地改良長期計画(2018~2022年度)において整備が必要と設定した目標値に沿って設定する。 1.施設長寿命化計画を検討した結果、整備が必要と判断した重要構造物の箇所数44箇所を目標値とする。 2.地元の要望や事業効果等を踏まえ、区画の拡大等の整備が必要と判断した農地の面積228haを目標値とする。 3.地元の要望や事業効果、施設の長寿命化計画等を踏まえ、畑地かんがい施設の新設及び更新が必要と判断した農地の面積2,223haを目標値とする。 4.施設管理者や民間事業者との協議の結果、農業用水路を活用した小水力発電施設の整備が必要と判断した発電施設の設備容量4,000kWを目標値とする。 5.疏水等の農業用施設について、毎年5箇所程度を新たな観光資源として環境整備することとした。最終年度である2022年度は25箇所を目標値とする。

事業番号	09 06 03	事業改善シート(令和4年度実施事業分)	<input type="checkbox"/> 当初要求 <input type="checkbox"/> 当初予算案 <input checked="" type="checkbox"/> 補正予算案 <input type="checkbox"/> 点検			
事業名	農業農村の基盤整備事業		部局	農政部	課・室	農地整備課

細事業 No.	細事業名	R2年度 最終予算	R3年度 最終予算	R4年度 予算	
1	農業農村の基盤整備事業	14,873,560 千円	15,535,465 千円	当初 6,527,698 補正 30,000 千円	
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度 実施内容(予定)		
1	県営かんがい排水事業	直接	農業水利施設の更新・補修、管理の省力化(16地区)		
2	県営畑地帯総合土地改良事業	直接	畑地かんがい施設の整備・更新、畑地の区画整理(11地区)		
3	経営体育成基盤整備事業	直接	水田の区画整理、用排水路・農道の整備(11地区)		
4	県営農道整備事業	直接	農道橋の耐震化、安全施設の整備(2地区)		
5	県営中山間総合整備事業	直接	中山間地域における農業生産基盤と農村生活環境の整備(11地区)		
6	団体営土地改良事業	補助金	小水力発電施設設置への支援(1地区) 農業水利施設や農道の改修、区画整理への支援(68地区)		
7	県単農業農村整備事業	補助金	土地改良区等が行う農業水利施設等の整備への支援(50地区)		
8	農村地域整備基礎調査事業	直接	農業農村整備事業の計画策定等に必要基礎資料の収集整理(整備実績等の調査)		
9	中山間地域土地改良施設保全管理適正化事業	直接	中山間地域の土地改良施設を保全管理する市町村・土地改良区を対象に会議・研修会を開催		
10	次代を担う土地改良技術者育成事業	直接	市町村や土地改良区の新任担当者に対して、土地改良技術の基礎的研修を実施		
11	信州の農業資産魅力発信事業	直接	農業資産の魅力を観光や地域学習に活用するための案内人養成研修会を開催 棚田の持続的な管理・運営体制の構築と情報発信の強化		
12	ふるさと信州棚田支援事業	補助金	棚田地域における土地改良施設や農地の保全整備等を行う地域住民活動への支援		
13	地下かんがいシステム実証事業	直接	地下水水位制御システムの本格導入に向け、導入適地を明らかにするための調査を実施		
14	電気料金高騰対策土地改良区支援事業	補助金	揚水ポンプや電動ゲート等の農業水利施設を管理している土地改良区等を対象に、令和4年度電気料金のうち、異常な高騰分に対して補助金を交付		